



## CEOメッセージ

# 「インパクト」実現をめざす中期経営計画

2021年3月、丸井グループはこれまで5年間にわたって取り組んできた中期経営計画(以下、中計)を終了しました。この5年間で振り返ると、中計スタート時に私たちがめざしていたことは、ほとんどを実現することができました。小売においては店舗の定借化が完了し、収益の安定化が進みました。またフィンテックでは、エポスカードの拠点の全国展開が拡大したことで、事業規模は約2

倍に成長しています。さらに「共創投資」という新たな取り組みが加わり、スタートアップ企業との協業によるイノベーションの導入が進みました。

そして、2021年5月、新たな中計を策定し、さらなる高みをめざすことにしました。2026年3月期を最終年度とする新中計では、これまでの中計の骨子であった「事業戦略」「資本政策」に「インパクト」を加えました。「インパクト」は、もと

もとはNPOなどで用いられてきた概念で、活動を通じて生み出したい「社会的変化」などを表します。しかし、丸井グループでいう「インパクト」は、企業価値を創出するうえで、めざす方向性を明確化したものであり、私たちだけが主体ではなく、「ステークホルダーが私たちに求めること」と「私たちが応えられること、応えたいこと」との重なりが「インパクト」であり、ステークホルダーが起点となっている点が特徴です。

私たちが掲げる「インパクト」は、「将来世代の未来を共に創る」「一人ひとりの『しあわせ』を共に創る」「共創のプラットフォームをつくる」の3つのテーマと6つの重点項目で構成されます(詳細はP.09)。今回の中計は初めから取り組みが十分に練り上げられたものではなく、フレームワークを決めて、後は動きながら流動的に進化していくようなプロジェクトとなっており、具体的な内容や目標については、現在各事業会社や各部署が策定を進めています。

また、「インパクト」の実現をめざすにあたり、これまでの「小売」「フィンテック」に、「未来投資」を加えた新たな三位一体のビジネスモデルに

よって取り組みを推進するとともに、無形資産投資を促進することで知識創造型のビジネスへと進化していきます。丸井グループでは、「人の成長=企業の成長」という企業理念に基づき、企業文化と人の成長に取り組むことで企業価値の向上をめざしています。これまで、経営の基盤となる企業文化を古いものから更新するためにさまざまな取り組みを進めており、現在では「インパクト」と収益を両立させる新たな経営へと移行しつつあります。あわせて、人的資本投資に注力してきましたが、今後はさらに投資を拡大することで将来的な収益に貢献できる人材を育成し、持続的な企業価値向上をめざします。

この5年間の中計を着実に進めることで「インパクト」の実現をめざします。そして、この道筋の中で、今回掲げている財務KPIも達成できるものと考えていますので、引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2022年6月

代表取締役社長 代表執行役員 CEO  
青井 浩